

うし の はまかいがん  
牛之浜海岸

【所在地】阿久根市大川9938地先～9850-3地先の海岸  
【種別】県指定名勝  
【指定年月日】平成26年4月22日

---



牛之浜海岸

阿久根市大川の牛之浜海岸は、東シナ海の荒波に洗われた奇岩奇礁の乱立する海岸で、阿久根県立自然公園の中に位置している。藍色の海の向こうに甌島を望む景色は、肥薩おれんじ鉄道の沿線でも随一とされ、特に夕陽の沈む頃の景色は絶賛されている。沖合には比較的大きな岩礁が広がり、ウシ瀬と呼ばれている。また、その手前に一つ大きな独立した岩の上に地元の方が建て守り続けている鳥居があり、この美しい景色に華を添えている。

江戸時代後期の史論家、儒者として知られる頼山陽<sup>らいさんよう</sup>は、文政元(1818)年に阿久根から川内に向かう途次、牛之浜海岸を絶賛し「阿岨嶺<sup>あぐね</sup>」と題する詩を詠んだ。この詩は、肥薩おれんじ鉄道牛ノ浜駅裏手にある頼山陽公園の石碑に刻まれている。

また、海岸に露出する岩石は、水深数千メートルの海溝で、大洋底の堆積物と大陸斜面の堆積物が複雑に混じり合ったメランジ堆積物であり、プレートテクトニクスで重要視される海溝での付加体の産状を知る上で学術的に貴重である。